



沼周辺のごみを一つ一つ拾い集める参加者

国際的に有名なラムサール条約指定地の伊豆沼・内沼の自然環境を保全するために、「第43回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン」(同実行委員会主催)が9月23日、登米、栗原両市にあるサンクチュアリ

まちの環境は自分で守ろう

第43回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン



約700人が参加したクリーンキャンペーン

センター3館で行われました。登米市では、迫町新田地区の市伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターを主会場に実施。同地区の小中学校や市内の企業、各種団体から約700人が参加しました。

市長は「9月13日を登米市民環境の日に制定しましたが、伊豆沼・内沼が市の環境指標となつていきます。環境の保全には一人一人の取り組みが大切。皆さんの手で沼の自然を守ってください」とあいさつしました。

参加者は、支給されたごみ袋を手長靴、軍手姿でおよそ2時間にわたり、沼周辺に捨てられていた空き缶・瓶や雑誌、たばこの吸い殻などの回収に汗を流しました。

伝統と未来の共存 飛躍する登米市

登米市産業フェスティバル



市内企業(農・工・商)の市内外への紹介と、異業種交流による新たな産業の創造を目指した、第3回登米市産業フェスティバルが10月13、14日の2日間、登米総合体育館で開催されました。今年のテーマは「伝統と未来の共存 飛躍する登米市」。屋内には商工業コーナーを設け、地元企業、学校、各種団体などが自慢の商品や最先端技術を駆使した製品を紹介しました。中でも、(株)登米村田製作所が開発・製作した自転車に乗るロボット「ムラタセイサク君」は、2日間で8回実演。毎回大勢の見物客が集まりました。また、屋外には市内産農林畜産物や加工品などの展示販売、米粉ピザ作り・なめこの植菌体験などの展示・体験コーナーなどを設置。津山町森林組合の須齊享養さん(津山)によるチェーンソーアートもあり、見事な出来栄のフクロウやイヌワシが制作され、出来上がった作品はオークションにより販売されました。そのほか、スタンプラリーや牛乳早飲み大会、肉当てクイズ、もちつきなどさまざまなイベントも実施。訪れた人たちは、登米市内企業の最先端技術に感心したり、お目当ての商品を買い求めたりして、「登米市のもづくり」を楽しんだ2日間となりました。



飲酒運転根絶と事故防止誓う

市交通安全宣言大会

秋の交通安全運動期間中(9月21日~30日)の9月21日、交通安全宣言大会(市交通安全対策協議会主催)が登米祝祭劇場で開かれました。

開会后、参加者全員で交通事故死被害者に対し、黙とうをさげました。市長は「いついかなるときに交通事故の被害者、加害者となるか分からない。市内から交通事故がなくなることを願いたい」とあいさつ。増子



交通安全に功労した団体、個人が表彰されました



会場から終始笑い声が絶えなかった南方地区交通安全指導隊員の交通安全寸劇

総務課 佐佐木警察署長が「今年市内で発生した交通事故で、8人が亡くなっている。そのうち6人が高齢者なので、今後は高齢者の事故防止に力を入れたい」と述べました。

その後、同協議会長の市長が交通安全に貢献したとして、登米地区交通安全協会(会登米支部と阿部進さん(登米)、千葉輝彦さん(米山))に表彰状を授与。続いて小学生交通安全母の会など4団体の代表者が誓いの言葉を発表し、参加者全員で交通安全宣言をしました。